

平成29年度呉市教科用図書選定委員会

総合所見

平成29年8月21日（月）

呉市教科用図書選定委員会

教科用図書の調査・研究の観点等について【特別の教科 道徳】

特別の教科 道徳の目標	第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
----------------	--

観点	視点	方法
基礎・基本の 定着	① 道徳科の学び方の示し方 ② 主題名の示し方 ③ ねらいに迫るための発問の示し方	○ オリエンテーションのページの示し方 ○ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例 ○ 発問の記載箇所や数、具体例
主体的に学習 に取り組む工 夫	④ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 ⑤ 体験的な学習を取り入れた工夫 ⑥ 自己の生き方につなげるための工夫	○ 問題解決的な学習として取り上げている内容項目、問題場面での発問例 ○ 体験的な学習として取り上げている内容項目、活動例 ○ 実生活に生かすような教材等の具体例
内容の構成・ 配列・分量	⑦ 分量や内容項目の数 ⑧ 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	○ 判、ページ総数、内容項目数 ○ いじめ・情報モラルに関する教材等の数、教材名、内容項目
内容の表現・ 表記	⑨ 巻頭・巻末等の取扱いの工夫 ⑩ 教材の内容を理解させる工夫	○ 巻頭・巻末等の示し方、具体例 ○ イラスト・写真・図表等の示し方の工夫、キャラクターやマーク等の活用
言語活動の充 実	⑪ 自分の考えを伝え合う活動の工夫 ⑫ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫	○ 話し合いを促す工夫と具体例 ○ 自分の考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫と具体例

平成29年度呉市教科用図書選定委員会 総合所見

校 種	小学校	種 目	「特別の教科 道徳」
観 点	1	基礎・基本の定着	
	2	主体的に学習に取り組む工夫	
	3	内容の構成・配列・分量	
	4	内容の表現・表記	
	5	言語活動の充実	

観点ごとに、特に優れていると考えられるものに【◎】、優れていると考えられるものに【○】を示している。

発 行 者	総合的な所見
東 書	<p>1 ① 第1学年は1つのページに学習活動をイラストで示している。第2学年以上は計8ページで構成されている。内容項目や教材名、学習の流れや約束、学習活動、ショートストーリーを基に話し合う視点を示し、自分の考えを書くページを見開きで各2ページずつ示している。</p> <p>② 同じ内容項目の教材には、まとめて同じ主題名を設定しているため、教材ごとには示していない。教材名のすぐ右横の色分けされた4つの視点のマークの下に示している。</p> <p>③ 第1・2学年は、教材名の下に、キャラクター「こころん」とともに、1個ずつ、第3学年以上は、教材文の終わりに2個ずつ記載している。全学年、全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり、児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ、見通しをもって学習できる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ 問題を見つけて考える教材には、「とびらページ」を付けて問題解決的な学習であることを示している。「考えるステップ」に発問を記載し、児童が問題解決に向けて思考するための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、人との関わりの中で考えることができる学習活動として、「出会う・ふれ合う」を設定している。</p> <p>⑥ いくつかの教材の終わりに「つながる 広がる」のページを設け、他の教科の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりすることができる工夫がある。また、巻末にも付録「つながる 広がる」のページを設け、文化や自然、先人の言葉等を通して、自己の生き方を考えさせる工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ 判はAB判。別冊なし。ページ総数120～194。教材数35・36。分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を21教材、「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。全学年において、「いじめのない世界へ」というユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。ユニットは、いじめを題材</p>

(東書)	<p>として扱った教材といじめを直接的には扱わない教材を組み合わせている。「情報モラル」に関する教材を全学年で扱い、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、いじめに関する教材にはピンク、問題解決的な学習に関する教材には水色で網掛けをし、タイトルを付けている。巻末：学期ごとの振り返りをするページが3ページ、これからの自分にメッセージ等を書くページが1ページある。また、「つながる 広がる」という見出しで、イラストや写真を掲載した付録がある。</p> <p>⑩ 「問題を見つけて考える」の教材では、とびらページの背景に写真を使用し、全学年で系統性をもたせている。学習の案内役として、「こころん」を設定し、発問を通して自分の生活を見つめさせる等の工夫がある。「出会う・ふれ合う」のマークを付け、コミュニケーション活動によって相互理解を深める学習であることを示している。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに「話し合いの約束」を示すとともに、話し合いを促すショートストーリーを設定している。全学年に、「出会う・ふれ合う」があり、児童同士の意見の交流を促す活動を設定している。</p> <p>⑫ 第1学年は学期ごとの教材名を1ページに示し、学習後に色塗りをするページがある。第2学年以上は、自らの学びや成長に気付くことができるように、振り返りとして(4～5か所)、考えたことや学んだこと等を学期ごとに記入できるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
学 図	<p>1① 教科書「読みもの」は、全学年とも見開き2ページで構成しており、考える視点等をイラストや吹き出し等で示している。教科書「活動」も、全学年とも見開き2ページで構成しており、教科書「読みもの」と教科書「活動」の使い方を示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に太字で示しているため、児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点ごとに色分けされた枠内に、4つの視点のマーク、内容項目のキーワード及び教材番号の下に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教科書「活動」の中に、「やってみよう」「かんがえよう」「みつめようアクティブ」等のマークとともに2～3個ずつ記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2④ 教科書「活動」の「はなしあおうアクティブ」マークを付けた発問を、問題解決的な学習を促すための話し合いとして記載している。</p> <p>⑤ 第4学年以外において、教科書「活動」の発問に「やってみようアクティブ」のマークを付けている。</p> <p>⑥ 「オリンピック・パラリンピックがやってくる」、「生き方を学ぼう」</p>

(学図)	<p>等の5つの視点を基にした「読み物コラム」を全学年に掲載することで、児童が道徳の学習を自らの生活と関連付けて考える工夫がある。</p>
	<p>3⑦ 判はA B判。別冊(教科書「活動」)あり。(第1～4学年:50ページ, 第5・6学年:54ページ) ページ総数122～154。教材数34・35。教材数が少なめであるが, 別冊があり対応可能である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を14教材, 「情報モラル」に関しては, 3教材+12コラムを扱っている。「情報モラル」に関する教材については, 第1～3学年では, 読み物コラム「言葉・情報モラル」①及び②において, 言葉遣いや話し方について扱っている。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱い, 発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
	<p>4⑨ 巻頭:目次がある。巻末:内容項目別一覧に, 学習の感想をマークで記入するなどの振り返りをするページが1ページある。教科書「活動」に, 話合いの仕方の例などを示した「活動の資料」や「活動のヒント」を掲載している。</p> <p>⑩ 教材名の下に, 該当する教科書「活動」のページを示すマークがある。教科書「活動」では, 「考えよう」「見つめよう」等のマークを付けている。特に, 学習を深める活動については, 「アクティブ」のマークを付けている。</p> <p>5⑪ オリエンテーションのページに, 話合いの具体的な状況を示している。教科書「活動」の巻末に「かつどうのヒント(第1・2学年)」「活動のしりょう(第3・4学年)」「(第5・6学年は「資料」と記載)のページがあり, 上手な話し方, 上手な話合いの仕方のポイントを示すことで, 児童に「考え, 議論する」ために大切なことをつかませることができる。</p> <p>⑫ 巻末に, 毎時間の学習の記録をマークで記入する欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
教 出	<p>1① 全学年とも, 見開き2ページで構成している。右ページには「今の自分について」及び目標等を書き込む欄があり, 左ページには道徳の学習ではどのような学びをするかについて示している。</p> <p>② 同じ内容項目の教材をまとめて扱う場合は, 先に扱う教材の冒頭の色付けした部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内のマークの上に示している。見開きで示された教材文の左ページの左上にも横書きで示している。</p> <p>③ 全学年とも, 同じ内容項目が連続して配列されている教材は, それぞれの最初の教材の主題名の左横に発問を記載している。全学年とも, 各教材の終わりに「学習の手引き」を設け, 1～7個(多くは5・6個)記載している。</p>

(教出)	<p>2④ 教材冒頭の主題名の次に、児童に考えさせたいことを記載するとともに、教材文の終わりの「学びの手引き」に、発問を記載している。</p> <p>⑤ 全学年において、教材文の途中に「やってみよう」を設定し、「学びの手引き」に「ジャンプ」を設定している。</p> <p>⑥ 巻末に「補充教材」として、「こころざしをもって」「国や郷土を愛する」等の視点を基に、4～5つの読み物教材を掲載している。第1学年と第2学年は、巻末に「みにつけよう れいぎ・マナー」のページを設けている。</p>
	<p>3⑦ 判はAB判。別冊なし。ページ総数122～154。教材数33・34。教材が少なめであるが、補充教材があり対応可能である。補充教材として、第1学年は4教材、第2～6学年は5教材を記載している。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を19教材、「情報モラル」に関する教材を8教材扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが、「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、内容項目ごとに見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。内容項目の視点ごとに色分けをしてマークを付けている。巻末：1年間の振り返りを書き込み、家の人や先生から一言書き込んでもらうページが1ページある。</p> <p>⑩ 「いじめをなくす」は黄、「情報モラル」は青、「生命尊重」は赤と、色別のマークを付け、目次及び該当ページに示している。</p> <p>5⑪ 全学年、巻頭の「道徳の学習が始まるよ」（2学年以上は、“○学年の”が冒頭につく）の中に、話合いの意義や活動について示している。教材の終わりの「学びの手引き」において、「話し合ってみましょう。」「みんなの意見を聞いて、話し合ってみましょう。」と発問することで、何について話し合うのかを明確に示している。</p> <p>⑫ 巻末に、1年間の学習を振り返るページが設定してあり、3か所の記入欄とともに、「家の人から一言」、「先生から一言」の欄がある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
光 村	<p>1① 第1学年には、オリエンテーションのページはない。第2学年以上は、見開き2ページで構成しており、学習活動や考える視点等をイラストや吹き出しで示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材の冒頭に示した4つの視点のマークの下に示している。</p> <p>③ 第1学年は、教材文の後の「かんがえよう」に、めあてとともに2～3個ずつ記載している。第2学年以上は、教材の冒頭に示している主題名の下にあるキャラクター「こころん」の吹き出しに記載している。教材文の後の「考えよう」にめあてとともに記載し、「つなげよう」のキャラクター「きらりん」の吹き出しにも記載している。</p>

	<p>2④ 教材冒頭に、児童に考えさせたいことをキャラクターの吹き出しで表している。教材の終わりの「考えよう」のコーナーにめあてを提示し、問題解決的な学習を促している。</p> <p>⑤ 全学年において、教材文の終わりにある「考えよう」において、「○○になったつもりで話してみましよう。」「演じてみましよう。」等の学習活動を設定している。</p> <p>⑥ 教材と「環境」「国際理解」等の視点を基にしたコラムを組み合わせた「ユニット」を学年毎に2～5つ設定し、自己の生き方についての考えを深めさせるための工夫がある。教材の終わりの「つなげよう」に示された発問や問いかけにより、毎時間、他教科等との関連や日常生活への意識付けをすることができる。</p> <p style="text-align: right;">【O】</p>
(光村)	<p>3⑦ 判はB5判。別冊なし。ページ総数129～209。教材数34・35。分量が多めである。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を29教材+7コラム、「情報モラル」に関する教材等を4教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は、全学年において、2教材とコラムのユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。全学年に「公正、公平、社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材等を第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：見開き2ページで詩とイラストを掲載している。目次では、「学習のまとまりを表す印」を付け、学習する順に教材を掲載している。巻末：友達等との人間関係を築くためのこつなどの資料を掲載している。</p> <p>⑩ 教材冒頭では、キャラクター「こころん」、教材の終わりにキャラクター「きらりん」を設定している。1年間を「4・5月」「6～9月」「10～12月」「1～3月」の4つのまとまりに分け、色別のマークで示している。</p>
	<p>5⑪ 第2学年以上のオリエンテーションのページにイラストで話合いの様子を示すとともに、巻末に、第5学年は「感想を表すときの言葉」、第6学年は「感情を表すときの言葉」を示している。教材の終わりの「考えよう」（第3学年以上は「考えよう」「つなげよう」）に、話合いを促す発問を記載している。</p> <p>⑫ 学習のまとまりごとに「学びの記録」というページを設定し、毎時間の振り返りをするすることができる。第2学年以上は、学習のまとまりごとにまとめを記入する欄がある。</p>
日 文	<p>1① 全学年とも計4ページで構成している。視点ごとの1年間に学ぶ内容項目、学習の流れや学習活動を、イラストや写真、吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。別冊ノートでは、全学年とも、自分の学びたいことや自分のことについて書き込むページを1ページずつ設けている。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に示し</p>

	<p>ているため、児童が学習内容のイメージをもちやすい。4つの視点のマークの下に視点ごとの色で色付けした枠を設け、中心部に教材名、その右横に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材の冒頭の主題名の下にキャラクター「ココロウ」とともに記載している。教材文の終わりに、「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」として、キャラクターの吹き出しに2個程度、別冊にも2個記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2④ 教材文の終わりに「学習の手引き」を設定して学習の流れとともに発問を記載することで、児童が学び方を参考にしながら問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、教材の終わりに「学習の手引き」として、劇をしたり体を動かしたりして考える教材を設定している。</p> <p>⑥ 「命」「食」等についての題材を扱った特設ページ「心のベンチ」を各学年5つ程度設定することで、児童が他の教育活動と関連付けながら、より広く深く考えることができる工夫がある。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
(日文)	<p>3⑦ 判はA B判。別冊ノートあり。(第1学年：41ページ、第2～6学年：42ページ) ページ総数146～186。教材数37～40。教材のうち、「ふろく」が第1～4学年は3教材、第5・6学年は4教材あり、同じ印の教材と入れ替えて扱うことができる。「ふろく」は入替可能であり、分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を30教材+6コラム(心のベンチ)、「情報モラル」に関する教材等を4教材+3コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は、全学年において、教材やコラムを組み合わせでユニットを設定しており、全学年に内容項目「公正、公平、社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材を第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次では、情報モラルやいじめ等をテーマにした見出しを付けており、複数の教材をまとめている。巻末：内容項目別教材一覧表にデジタル欄を設け、パソコン等を使用して学習を深められるようにしている。別冊ノートでは、心に残ったお話と理由を書き込んだり、保護者が記入したりするページが1ページある。</p> <p>⑩ 学習の案内役としてキャラクター「ココロウ」を設定している。「りさ」等の4人のキャラクターを設定し、教材の終わりに発問とともに記載している。学習を広げ深めるページを「心のベンチ」として、マークで示している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに、話合いの具体的な状況を示している。教材の終わりにある「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」に話合いを促す発問を示している。また、「学習の手引き」を設定している教</p>

<p>(日文)</p>	<p>材では、問題解決に向けての話合い活動について、グループで話し合う方法を示したり学級全体での話合いを促したりする等の工夫がある。</p> <p>⑫ 別冊ノートに、毎時間の学習について○を付けて自己評価する欄があり、児童自らが学びを振り返ることができる。別冊ノートの巻末に、「道徳の学習で学んだことを書きましょう。」が設けてあり、心に残った話とその理由や保護者からの一言を4つ（第2学年は2つ）抜粋して記入できるようにになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
<p>光 文</p>	<p>1 ① 全学年とも8ページで構成している。視点ごとの学ぶ内容、学習の流れや方法、道徳の時間以外の活動との関連を促すページ、教科書の使い方を、イラストや吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童に考えさせたい問いを記載しているので、児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマークと同系色の色で色付けした部分があり、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。</p> <p>③ 教材の冒頭の主題名の左横に記載している。教材文の下のキャラクターの吹き出しに記載している。教材文の終わりに「まとめるマーク」「ひろげるマーク」とともに、記載している。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p> <p>2 ④ 児童に問題意識をもたせるために、教材の冒頭に問いを記載している。教材文の下段に記載している発問の中にも、問題解決につながる発問がある。</p> <p>⑤ 全学年において、コラム「みんなでやってみよう」を設定している。</p> <p>⑥ 「伝統文化」「スポーツ」等の題材を扱ったコラムを掲載しており、児童が他教科や特別活動等の学習につなげて考えることができる工夫がある。毎時間の教材の終わりに「広げる」を設定し、児童が授業で学んだことを生活の中で実践してみたり、もっと深めたりする工夫がある。</p> <p>3 ⑦ 判はA4変形判。別冊なし。ページ総数158～194。教材数40。教材数が多めではあるが、第1学年は6教材、第2～6学年は5教材、「ふろく」が含まれている。「ふろく」は入替可能であり、分量、教材数とも適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材等を18教材+6コラム、「情報モラル」に関する教材等を6教材+8コラム扱っている。「いじめ」に関しては、全学年に「ちびまる子ちゃんと考えよう！」（みんななかよし 楽しい学校）というコラムが系統的に設定してある。また、第2・5学年でユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材、「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

(光文)	<p>4⑨ 巻頭：目次では、伝統文化や命等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。巻末：内容項目別一覧の教材名の欄に、重点主題教材にマークをつけている。1時間ごとに感じたことを書いたり、学期ごとにまとめを書いたりする折り込みページがある。</p> <p>⑩ 「ゆたかさん」等の2人の子供や、「わんだ先生」等の動物のキャラクターを設定している。「ことばのたからもの」マークとともに、教材と関連のある言葉を紹介している。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに話し合う活動を提示し、グループやクラスで話し合いを深めていくよう促している。教材の終わりの「まとめる」、「広げる」において、「～クラスで話し合いましょう。」等と発問することで、何について話し合うのかを明確に示している。</p> <p>⑫ 巻末に「学びの足あと」を折り込みページで設けてあり、第1・2学年は、毎時間の授業後の気持ちを顔マークで、第3学年以上は矢印で表す。第3学年以上は一言を記入する欄もある。全学年、自らの学びや成長に気付くことができるように、「まとめ」の欄が3か所あり、学期ごとの振り返りを記入できるようになっている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
学 研	<p>1① 全学年とも4ページで構成している。最初の見開き2ページには、右ページに学習活動をイラストや説明で示し、左ページに自分のことについて書き込む欄を設けている。次の見開き2ページには、4つの視点ごとに1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。</p> <p>② 教材文には主題名は示していない。巻頭の見開き2ページの中で、主題ごとに教材名をまとめ、示している。色別の4つの視点のマークと文字で示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材文の後の「考えよう」に2個、問題解決的な学習として扱っている教材には4個の発問を学習展開に即して記載している。全学年、全ての教材の決まった位置に適切な数の発問があり、児童がその教材を通してどんなことについて考えたらよいか明確にすることができ、思考しやすくなっている。</p>
	<p>2④ 問題解決的に扱う教材については、教材の終わりの「深めよう」において、学習の流れとともに発問を記載することで、児童が見通しをもって問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。</p> <p>⑤ 全学年において、教材の終わりに「やってみよう」を設定している。</p> <p>⑥ 「つなげよう」「広げよう」等の4種類の「学び方のページ」を設け、教材で学習したことを基に、児童が自分の生活や生き方につなげて考えることができる工夫がある。実在の人物を取り上げた教材が全学年合わせて50ある。内容項目では、「希望と勇気、努力と強い意志」が10で一番多く、錦織圭、吉田沙保里、内村航平などスポーツ選手を多く取り上げている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

(学研)	<p>3⑦ 判はA4判で他者と比べて大きめである。別冊なし。ページ総数132～168。教材数34・35。分量、教材数は適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を28教材、「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。「いじめ」に関する教材は第3・4学年でユニットがあり、重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材、「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており、発達段階に応じた指導ができる。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4⑨ 巻頭：見開き2ページで写真と詩を掲載している。目次では、いのち等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめている。巻末：心に残った話などを記入するページが1ページある。</p> <p>⑩ ユニット教材のとびらのページの背景に写真を使用している。鉛筆のマークを付けて、自分の考えや友達の考えを記述できるようにしている。家のマークを付けて、家庭と連携する学習活動を示している。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページに、話し合う活動を提示し、話合いのポイントを示している。「学び方のページ」の中の「深めよう」のページに学習展開を示し、学習活動の一つとして話合い活動を位置付けており、児童の思考を深めるための工夫となっている。</p> <p>⑫ 全学年、巻末に「心に残った話」や「心に増えた宝物」を記入する欄が5か所ある。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
廣あかつき	<p>1① 全学年とも、道徳の時間に学ぶ意義について示したページが1ページ、それに加えて、第2学年以上では、道徳の学習活動を見開き2ページで示している。別冊ノートの1ページ目に、今の自分を見つめて書き込む欄を設けている。</p> <p>② 教材ごとに主題名を示している。教材名のすぐ右横に4つの視点ごとに色でラインを引き、その中に主題名を示している。</p> <p>③ 全学年とも、教材の終わりの「考えよう 話し合おう」に、3～5個記載している。第3学年以上は、同コーナーに、「学習の道すじ」として、めあてとともに記載している。別冊「道徳ノート」に、鉛筆のマークとともに、1～2個記載している。</p>
	<p>2④ 教材文の終わりの「考えよう 話し合おう」に「学習の道すじ」として、めあて及び発問を記載し、問題解決的な学習を促している。</p> <p>⑤ 第3学年以上において、教材の終わりの「学習を広げる」の中で「活動しよう」を設定している。</p> <p>⑥ 巻末に、「生命尊重」「ともに生きる社会」等、他の教育活動との関連を図りながら、身近な問題として考えることができる読み物教材を掲載している。</p>
	<p>3⑦ 判はAB判。別冊ノートあり。(第1・2学年：60ページ、第3・4学年：64ページ、第5・6学年：72ページ) ページ総数118～170。</p>

(廣あかつき)	<p>教材数34・35。分量，教材数は適切である。</p> <p>⑧ 「いじめ」に関する教材を18教材，「情報モラル」に関する教材等を7教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが，「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。</p>
	<p>4⑨ 巻頭：目次のあとに，詩を1ページ掲載している。巻末：別冊ノートに，心に残っている授業や体験活動を記録する欄を設けているページが7～13ページある。1時間ごとの振返りを記号で記入し，学期ごとに内容項目を振り返る折り込みページがある。</p> <p>⑩ 第3学年以上は，教材と関連して学習を深める読み物等のページに「葉」のマークを付けている。第3学年以上の「考えよう話し合おう」のコーナーの中に，「学習の道すじ」や「学習を広げる」マークを付けている。別冊「道徳ノート」の中で，教材を通して感じたことや考えたことをまとめるところに鉛筆のマークを付けている。</p>
	<p>5⑪ オリエンテーションのページで，話合いの意義やポイントに触れている。教材の終わりに，「考えよう 話し合おう」を設定している。</p> <p>⑫ 別冊ノートに，内容項目ごとに振返りを記入する欄が2か所ずつある。別冊ノートの巻末に「心に残っている授業の記録」（全学年），「かんじたことや考えたこと」（第1・2学年），「学習の記録」（第3学年以上），「話し合い活動の記録」（第4学年以上），「体験活動の記録」（第4学年以上）を記入する欄がある。「心のしおり」という折り込みページがあり，毎時間の振返りを色塗りで表し，「先生や家の人に見てもらった記録」という欄がある。</p>

【観点1】基礎・基本の定着

◆: 視点、◇方法
◎: 特に優れている、○: 優れている

発行者	①			②			③		
	◆ 道徳科の学び方の示し方 ◇ オリエンテーションページの示し方	◆ 主題名の示し方 ◇ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例	◆ ねらいに迫るための発問の示し方 ◇ 発問の記載箇所や数、具体例	◆ 道徳科の学び方の示し方 ◇ オリエンテーションページの示し方	◆ 主題名の示し方 ◇ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例	◆ ねらいに迫るための発問の示し方 ◇ 発問の記載箇所や数、具体例	◆ 道徳科の学び方の示し方 ◇ オリエンテーションページの示し方	◆ 主題名の示し方 ◇ 教材ごとの主題の記載の仕方及び具体例	◆ ねらいに迫るための発問の示し方 ◇ 発問の記載箇所や数、具体例
東書	第1学年は1つのページに学習活動をイラストで示している。第2学年以上は計8ページで構成されている。内容項目や教材名、学習の流れや約束、学習活動、シヨートストーリーを基に話し合う視点を示し、2ページずつ示している。	同じ内容項目の教材には、まとめて同じ主題名を設定しているため、教材ごとには示していない。教材名のすぐ右横の色分けされた4つの視点のマークの下に示している。	第1・2学年は、教材名の下に、キャラクター「こころん」とともに、1個ずつ、第3学年以上は、教材文の終わりに2個ずつ記載している。全学年、全ての教材の児童がその教材を通してどんなことについて考えたらいいか明確にすることができ、見通しをもって学習できる。	同じ内容項目の教材には、まとめて扱う場合は、先に扱う教材の冒頭の色分けした部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内のマークの上に示している。上見開きで示された教材文の左ページの左にも横書きで示している。	全学年とも、同じ内容項目が連続して配列されている。教材は、それぞれの最初の教材の主題名の左横に記載している。全学年とも、各教材の終わりに「学習の手引き」を設け、1～7個（多くは5・6個）記載している。	○	○	○	○
学図	教科書「読みもの」は、全学年とも見開き2ページで構成しており、考える視点をイラストや吹き出し等で示している。教科書「活動」も、全学年とも見開き2ページで構成しており、教材書「読みもの」と教科書「活動」の使い方を示している。	教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に太字で示しているため、児童が学習内容のイメージをもちやすいため、4つの視点ごとに色分けされた枠内のマーク、内容項目のキーワード及び教材番号の下に主題名を示している。	全学年とも、教材の終わりの「考えよう」に、3～5個記載している。「学習の手引き」として、めあてとともに記載している。別冊「道徳ノート」に、鉛筆のマークとともに、1～2個記載している。	同じ内容項目の教材をまとめて扱う場合は、先に扱う教材の冒頭の色分けした部分の中に示している。4つの視点ごとに色分けされた枠内のマークの上に示している。上見開きで示された教材文の左ページの左にも横書きで示している。	教材ごとに主題名を示している。教材冒頭の教材名のすぐ右横に示しているため、児童が学習内容のイメージをもちやすいため、4つの視点のマークの下に視点の色で色分けした部分があり、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○
教出	全学年とも、見開き2ページで構成している。右ページには「今の自分について」及び目標等を書き込む欄があり、左ページには道徳の学習ではどのような学びをするかについて示している。	教材ごとに主題名を示している。教材の冒頭に示した4つの視点のマークの下に示している。	第1学年は、教材文の後の「かんがえよう」に、めあてとともに3個ずつ記載している。第2学年以上は、教材の冒頭に示している。主題名の下にあるキャラクター「こころん」の吹き出しに「考えよう」として、教材文の後の「考えよう」にめあてとともに記載し、「つながりよう」のキャラクター「きらりん」の吹き出しにも記載している。	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	全学年とも、教材の終わりの「考えよう」に、3～5個記載している。「学習の手引き」として、めあてとともに記載している。別冊「道徳ノート」に、鉛筆のマークとともに、1～2個記載している。	○	○	○	○
光村	第1学年には、オリエンテーションページのページは、見開き2ページで構成しており、学習活動や写真、吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。別冊ノートでは、全学年とも、自分の学びたいことや自分のことについて書き込むページを1ページずつ設けている。	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	全学年とも、教材の冒頭の主題名の下にキャラクター「ココロウ」とともに記載している。教材文の終わりに、「考えよう」として、教材文の終わりに「考えよう」として、キャラクター「キラキラ」の吹き出しにも記載している。	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○	○
日文	全学年とも8ページで構成している。視点ごとの学ぶ内容、学習の流れや方法、道徳の時間以外の活動との関連を促すページ、教科書の使い方、イラストや吹き出し等を使って、それぞれ見開き2ページで示している。	教材文には主題名は示していない。巻頭の見開き2ページの中で、主題ごとに教材名をまとめ、示している。色別の4つの視点のマークと文字で示している。	教材の冒頭の主題名の左横に記載している。教材文の下のキャラクターの吹き出しに記載している。教材文の終わりに「まとめ」に、記載している。	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○	○
光文	全学年とも4ページで構成している。最初の見開き2ページには、右ページに学習活動をイラストや説明で示し、左ページに自分のことについて書き込む欄を設けている。次の見開き2ページには、4つの視点ごとに1年間に学ぶ内容項目と教材名を示している。	教材文には主題名は示していない。巻頭の見開き2ページの中で、主題ごとに教材名をまとめ、示している。色別の4つの視点のマークと文字で示している。	○	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○	○
学研	全学年とも、道徳の時間に学ぶ意義について示したページが1ページ、それに加えて、第2学年以上では、道徳の学習活動を見開き2ページで示している。別冊ノートの1ページ目に、今の自分を見つめて書き込む欄を設けている。	教材ごとに主題名を示している。教材名のすぐ右横に4つの視点ごとに色分けを引き、その中に主題名を示している。	○	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○	○
廣あかつき	全学年とも、道徳の時間に学ぶ意義について示したページが1ページ、それに加えて、第2学年以上では、道徳の学習活動を見開き2ページで示している。別冊ノートの1ページ目に、今の自分を見つめて書き込む欄を設けている。	教材ごとに主題名を示している。教材名のすぐ右横に4つの視点ごとに色分けを引き、その中に主題名を示している。	○	教材ごとに主題名を示し、主題名と併せて児童が考えさせたい問いを記載している。児童が学習内容のイメージをもちやすい。教材名の右横に、視点のマーク、その中に視点のマーク、マークの下に主題名を示している。	○	○	○	○	○

【観点2】主体的に学習に取り組む工夫

【◆：視点、◇方法
◎：特に優れている、○：優れている】

発行者	④		⑤		⑥	
	◆ 問題解決的な学習を取り入れた工夫 <small>◇ 問題解決的な学習として取り上げている内容項目：問題場面での発問例</small>	◆ 体験的な学習を取り入れた工夫 <small>◇ 体験的な学習として取り上げている内容項目：活動例</small>	◆ 自己の生き方につなげるための工夫 <small>◇ 実生活に生かすような教材等の具体例</small>			
東書	問題を見付けて考える教材には、「とびらペーじ」を付けて問題解決的な学習であることを示している。「考えるステップ」に発問を記載し、児童が問題解決に向けて思考するための工夫がある。	全学年において、人との関わりの中で考えることができる学習活動として、「出会う・ふれ合う」を設定している。	いくつつかの教材の終わりに「つながる広がる」のページを設け、他の教科の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりすることができたり、工夫がある。また、巻末にも付録「つながる 広がる」のページを設け、文化や自然、先人の言葉等を通して、自己の生き方を考えさせる工夫がある。	○		
学図	教科書「活動」の「はなしあおうアクトイブ」ワークを付けた話合いとして記載している。	第4学年以外において、教科書「活動」の発問に「やってみようアクトイブ」のワークを付けている。	「オリソビック・パラソビックがやってみよう」。「生き方ぼう」等の5つの視点を基にした「読み物コラム」を全学年に掲載することで、児童が道徳の学習を自らの生活と関連付けて考えられる工夫がある。			
教出	教材冒頭の主題名の次に、児童に考えさせたいことを記載するとともに、教材文の終わりの「学びの手引き」に、発問を記載している。	全学年において、教材文の途中に「やってみよう」を設定し、「学びの手引き」に「ジャンプ」を設定している。	巻末に「補充教材」として、「こころざしをもつて」「国や郷土を愛する」等の視点を基に、4～5つの読み物教材を掲載している。第1学年と第2学年は、巻末に「みにつけよう れいぎ・マナー」のページを設けている。			
光村	教材冒頭に、児童に考えさせたいことをキャラクターの吹き出しで表している。教材の終わりの「考えよう」の考えよう「考えるヒント」を提示し、問題解決的な学習を促している。	全学年において、教材文の終わりにある「考えよう」において、「○○になつたつもりで話してみよう。」、「演じてみましょう。」等の学習活動を設定している。	教材と「環境」「国際理解」等の視点を基にしたコラムを組み合わせた「ユニツト」方を基にした学年毎に2～5つ設定し、自己の生き方がある。教材の終わりの「つながり」に示された発問や問いかけにより、毎時間、他教科等との関連や日常生活への意識付けをすることができる。	○		
日文	教材文の終わりに「学習の手引き」を設定して学習の流れとともに発問を記載すること、児童が学び方を参考にしたための工夫がある。	全学年において、教材の終わりに「学習の手引き」として、劇をしたり体を動かしたりして考える教材を設定している。	「命」「食」等についての題材を扱った特設ページ「心のペンチ」を各学年5つ程度設定することで、児童が他の教育活動と関連付けながら、より深く考えることができる工夫がある。	◎		
光文	児童に問題意識をもたせるために、教材の冒頭に問いを記載している。教材文の下端に記載している発問の中にも、問題解決につながる発問がある。	全学年において、コラム「みんなやってみよう」を設定している。	「伝統文化」「スポーツ」等の題材を扱ったコラムを掲載しており、児童が他教科や特別活動等の学習につなげて考えることができる工夫がある。毎時間の教材の終わりに「広げる」を設定し、児童が授業で学んだことを生活の中で実践してみたり、もっと深めたりする工夫がある。			
学研	問題解決的に扱う教材については、教材の終わりの「深めよう」において、学習の流れとともに発問を記載することで、児童が見通しをもって問題解決に向けて学習をすすめるための工夫がある。	全学年において、教材の終わりに「やってみよう」を設定している。	「つながりよう」「広げよう」等の4種類の「学び方」のページを設け、教材で学習したことを基に、児童が自分のできる生活や生き方につなげて考えることができる工夫がある。実在の人物を取り上げた教材が全学年合わせて50ある。内容項目では、「希望と勇氣、努力と強い意志」が10、「希多く、錦織圭、吉田沙保里、内村航平などスポーツ選手を多く取り上げている。	○		
廣あかつき	教材文の終わりの「考えよう 話し合おう」に「学習の道すじ」として、めあて及び発問を記載し、問題解決的な学習を促している。	第3学年以上において、教材の終わりの「学習を広げる」の中で、「活動しよう」を設定している。	巻末に、「生命尊重」「ともに生きる社会」等、他の教育活動との関連を図りながら、身近な問題と考えることができる読み物教材を掲載している。			

【観点3】内容の構成・配列・分量

◆：視点、◇：方法
◎：特に優れている、○：優れている

7		⑧	
発行者	◆ 分量や内容項目の数 ◇ 判、ページ総数 内容項目数	◆ 現代的な課題等を踏まえた内容の示し方 ◇ いじめ・情報モラルに関する教材等の数、教材名、内容項目	
東書	判はAB判。別冊なし。ページ総数120～194。教材数35・36。分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材を21教材, 「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。全学年において, 「いじめのない世界へ」というユニットがあり, 重点的な扱いが可能な工夫がある。ユニットは, いじめを題材として扱った教材といじめを直接的には扱わない教材を組み合わせている。「情報モラル」に関する教材を全学年で扱い, 発達段階に応じた指導ができる。	◎
学図	判はAB判。別冊(教科書「活動」)あり。(第1～4学年: 50ページ, 第5・6学年: 54ページ) ページ総数122～154。教材数34・35。教材数が少なめであるが, 別冊が対応可能である。	「いじめ」に関する教材を14教材, 「情報モラル」に関しては, 3教材+12コラムを扱っている。「情報モラル」に関する教材については, 第1～3学年では, 言葉遣いやコラム「言葉・情報モラル」①及び②において, 「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材とともに全学年で扱い, 発達段階に応じた指導ができる。	○
教出	判はAB判。別冊なし。ページ総数122～154。教材数33・34。教材が少なめであるが, 補充教材があり対応可能である。補充教材として, 第1学年は4教材, 第2～6学年は5教材を記載している。	「いじめ」に関する教材を19教材, 「情報モラル」に関する教材を8教材扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが, 「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。	○
光村	判はB5判。別冊なし。ページ総数129～209。教材数34・35。分量が多めである。	「いじめ」に関する教材等を29教材+7コラム, 「情報モラル」に関する教材等を4教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は, 全学年において, 2教材がある。コラムのユニットがあり, 重点的な扱いができる工夫がある。「情報モラル」に関する教材等を第3学年以上で扱っている。	
日文	判はAB判。別冊ノートあり。(第1学年: 41ページ, 第2～6学年: 42ページ) ページ総数146～186。教材数37～40。教材のうち, 「ふるく」が第1～4学年は3教材, 第5・6学年は4教材あり, 同じ印の教材と入れ替えて扱うことができる。「ふるく」は入替可能であり, 分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材等を30教材+6コラム(心のペンチ), 「情報モラル」に関する教材等を4教材+3コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は, 全学年において, 教材やコラムを組み合わせてユニットを設定しており, 全学年に内容項目「公正, 公平, 社会正義」の教材がある。「情報モラル」に関する教材を第3学年以上で扱っている。	
光文	判はA4変形判。別冊なし。ページ総数158～194。教材数40。教材数が多めではあるが, 第1学年は6教材, 第2～6学年は5教材, 「ふるく」が含まれている。「ふるく」は入替可能であり, 分量, 教材数とも適切である。	「いじめ」に関する教材等を18教材+6コラム, 「情報モラル」に関する教材等を6教材+8コラム扱っている。「いじめ」に関する教材等は, 全学年に「ちびまる子ちゃん」や「えよう!」(みんななかよし)と「楽しい学校」というユニットがあり, 重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており, 発達段階に応じた指導ができる。	◎
学研	判はA4判で他者と比べて大きめである。別冊なし。ページ総数132～168。教材数34・35。分量, 教材数は適切である。	「いじめ」に関する教材を28教材, 「情報モラル」に関する教材を6教材扱っている。「いじめ」に関する教材は第3・4学年でユニットがあり, 重点的な扱いができる工夫がある。「いじめ」に関する教材, 「情報モラル」に関する教材ともに全学年で扱っており, 発達段階に応じた指導ができる。	○
廣あかつき	判はAB判。別冊ノートあり。(第1・2学年: 60ページ, 第3・4学年: 64ページ, 第5・6学年: 72ページ) ページ総数118～170。教材数34・35。分量, 教材数は適切である。	「いじめ」に関する教材を18教材, 「情報モラル」に関する教材等を7教材+4コラム扱っている。「いじめ」に関する教材は全学年で扱っているが, 「情報モラル」に関する教材は第3学年以上で扱っている。	

【観点4】内容の表現・表記

◆：視点、◇：方法
◎：特に優れている、○：優れている

発行者		⑨	
◆ 巻頭・巻末等の取扱いの工夫 ◇ 巻頭・巻末等の示し方 具体例		◆ 教材の内容を理解させる工夫 ◇ イラスト・写真・図表等の示し方の工夫 キャラクターやワーク等の活用	
東書	<p>巻頭：目次では、はじめに関する教材にはピンク、問題解決的な学習に関する教材には水色で網掛けをし、タイトルを付けている。巻末：学期ごとと振り返りをするページが3ページ、これからの自分にメッセージ等を書くページが1ページある。また、「つながる広がる」という見出しで、イラストや写真を掲載した付録がある。</p>	<p>「問題を見つけて考える」の教材では、とびらページの背景に写真を使用し、全学年で系統性をもたせている。学習の案内役として、「こころろん」を設定し、発問を通して自分の生活を見つめさせる等の工夫がある。「出会う・ふれ合う」のワークを付け、コミュニケーション活動によって相互理解を深める学習であることを示している。</p>	◎
学図	<p>巻頭：目次がある。巻末：内容項目別一覧に、学習の感想をワークで記入するなどの振り返りをするページが1ページある。教科書「活動」に、話し合いの仕方の例などを示した「活動の資料」や「活動のヒント」を掲載している。</p>	<p>教材名の下に、該当する教科書「活動」のページを示すワークがある。教科書「活動」では、「考えよう」「見ようしよう」等のワークを付けている。特に、学習を深める活動については、「アクティヴ」のワークを付けている。</p>	
教出	<p>巻頭：目次では、内容項目ごとに見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめてある。内容項目の視点ごとにより色分けをしてワークを付けている。巻末：1年間の振り返りを書き込み、家の人や先生から一言書き込んでもらうページが1ページある。</p>	<p>「はじめをなくす」は黄、「情報モラル」は青、「生命尊重」は赤と、色別のワークを付け、目次及び該当ページに示している。</p>	
光村	<p>巻頭：見開き2ページで詩とイラストを掲載している。目次では、「学習のまとめ」を表す「印」を付け、学習する順に教材を掲載している。巻末：友達等との人間関係を築くためのこつなどの資料を掲載している。</p>	<p>教材冒頭では、キャラクター「こころん」、教材の終わりにキャラクター「きらりん」を設定している。1年間を「4・5月」「6～9月」「10～12月」「1～3月」の4つのまとめりに分け、色別のワークで示している。</p>	
日文	<p>巻頭：目次では、情報モラルやはじめ等をテーマにした見出しを付けており、複数の教材をまとめてある。巻末：内容項目別教材一覧表にデジタル欄を設け、パソコン等を使用して学習を深められるようにしている。別冊ノートでは、心に残ったお話しと理由を書き込んだり、保護者が記入したりするページが1ページある。</p>	<p>学習の案内役としてキャラクター「ココロウ」を設定している。「りさ」等の4人のキャラクターを設定し、教材の終わりに発問とともに記載している。学習を広げ深めるページを「心のベンチ」として、ワークで示している。</p>	○
光文	<p>巻頭：目次では、伝統文化や命等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめてある。巻末：内容項目別一覧の教材名の欄に、重点主題教材にワークを付けている。1時間ごとと感じたことを書いて、学期ごとにまとめを書いたりする折り込みページがある。</p>	<p>「ゆたかさん」等の2人の子供や、「わんだ先生」等の動物のキャラクターを設定している。「ことばのたからもの」ワークとともに、教材と関連のある言葉を紹介している。</p>	
学研	<p>巻頭：見開き2ページで写真と詩を掲載している。目次では、いのち等をテーマにした見出しを付けて網掛けをし、複数の教材をまとめてある。巻末：心に残った話などを記入するページが1ページある。</p>	<p>ユニット教材のとびらのページの背景に写真を使用している。鉛筆のワークを付けて、自分の考えや友達の考えを記述できるようにしている。家のワークを付けて、家庭と連携する学習活動を示している。</p>	
廣あかつき	<p>巻頭：目次のあとに、詩を1ページ掲載している。巻末：別冊ノートに、心に残っている授業や体験活動を記録する欄を設けているページが7～13ページある。1時間ごとと振り返りを記号で記入し、学期ごとに内容項目を振り返る折り込みページがある。</p>	<p>第3学年以上は、教材と関連して学習を深める読み物等のページに「葉」のワークを付けている。第3学年以上の「考えよう話し合おう」のワークの中には、「学習の道すじ」や「学習を広げる」ワークを付けている。別冊「道徳ノート」の中で、教材を通して感じたことや考えたことをまとめるところに鉛筆のワークを付けている。</p>	

